

玉名地域のトマト栽培における天敵を利用したIPM技術の取組み

玉名地域のトマト栽培では、天敵（タバコカスミカメ）を利用したIPM技術の確立に向けて継続して取り組んでいます。トマトを栽培するうえで大幅な減収をもたらすトマト黄化葉巻病等のウイルス病の対策が重要とされていますが、そのためにはウイルス病を媒介する害虫（タバココナジラミ）を防除する必要があります。近年は、温暖化等の影響で野外における害虫の発生が多いことや薬剤抵抗性の発達等により農薬のみの対策では十分な防除が難しい状況にあります。

玉名支部では、害虫を捕食する天敵を活用した対策について、展示ほ等を設置しながら技術の検証を行っています。過去5年間の調査結果や実際に天敵を利用している生産者への聞き取り等を通じて得られた知見をもとに玉名地域版の天敵利用マニュアルを作成しました。マニュアルには天敵利用スケジュールや利用上の注意点等を盛り込んでいます。

完成したマニュアルは生産者へ配布を予定しており、併せて講習会や現地検討会を開催しながら天敵利用技術の普及拡大を目指しています。今後もIPM技術含めトマトの安定生産に向けて、関係機関一体となって支援を行っていきます。



トマトの葉に生息する天敵



天敵利用マニュアル